

## 車両確認検査等訓練の概要

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
国が作成した「原子力災害時における避難退域時検査及び簡易除染マニュアル」に基づいた車両への検査及び簡易除染の実施 (ゲートモニター・大型車両除染 TENT を活用した車両除染手順の確認)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルに基づいた車両の検査から除染までの一連の流れや手順を確認することができた。</li> <li>・車両の除染に関して、強風により、飛散した水しぶきの一部が外に飛散した。</li> <li>・強風により大型車両除染 TENT が傾き、TENT の固定をやり直した。</li> <li>・バス運転手に対する誘導が十分でなく、スムーズに検査できない場合があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒天時の資機材の運用について、風向に応じてTENTの向きを変更する、風速が5m/s以上の場合はTENTを構造物や車両にくくり付けるなどの対応を行う。</li> <li>・交通誘導員を配置するとともに、バス事業者研修を通じて検査の流れを知っていただくよう取り組む。</li> </ul>	
県が整備した退域時検査用資機材の輸送・展開・運用手順の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両用除染資機材をシステム化したことにより、輸送・展開において効率化が図られた。</li> <li>・コンテナ内に現地指揮所を設置したが、非常用発電機からの電源供給の準備に時間を要した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテナ内に共通の配電盤を設置することで、スムーズな電源供給を行う。</li> </ul>	

## 車両確認検査等訓練の概要



ゲートモニター指定箇所検査



指定箇所検査で基準値を超えた車両の確認検査



確認検査で基準値を超えた車両の除染

- ①ゲートモニターにより放射性物質の付着の有無を判断。(指定箇所検査)
- ②指定箇所検査で放射性物質の付着があると判断された車両について、放射性物質の付着箇所を確認。(確認検査)
- ③確認検査で基準値を超えた車両については、除染を実施。
- ④除染の結果、基準値以下であることを確認した車両は避難退域時検査会場に移動。

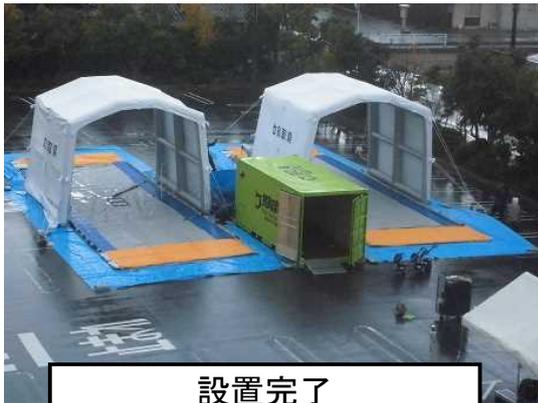
# 車両確認検査等訓練の概要



資機材搬入



設置作業中



設置完了



指揮所

コンテナは車両除染に必要な資機材が格納されているだけでなく、資機材を搬出後は指揮所として活用できる。

## 県営広域避難所開設訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
職員の動員手順の 確認	動員計画に規定する手順 どおりに実施できることが 確認できた。	訓練では計画に沿った手順を円 滑に実施できたため、改善事項は 認められなかった。実際の有事の 際は多人数を同時並行で動員す る必要があり、輻輳や遅延が懸念 されるため、中部地震、大雪、熊 本地震等での職員派遣の対応を 踏まえ、各部局の動員数の設定 方法を整理していく。	
動員者による県営 広域避難所(居住 スペース)の設営	実際の対応時に想定され る動員職員のみでの設営 作業を円滑に行うため、設 営マニュアルの詳細化や 作業統括者の指名が有効 であることを確認できた。	訓練参加者や段ボール製造業者 の意見等を参考に、より効率的な 設営方法の検討や作業マニユ アルの改良に取り組む。 今後も訓練未実施の施設におい て順次訓練を実施し、課題の検証 を通じて実効性の向上を図ってい く。	

## 県営広域避難所開設訓練の概要

**【日時】 平成29年8月9日(水) 10:00～12:00**

**【場所】 とりぎん文化会館 リハーサル室**

**【概要】 ・ 職員の動員手順の確認**

**・ 動員者による県営広域避難所(居住スペース)の設営**

※住民避難訓練(船舶)参加者の県営広域避難所の見学については、当該訓練の中止に伴い未実施

### 【訓練の様子】



## 原子力防災講座等

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
<p>訓練参加住民に放射線基礎や原子力防災についての知識・理解を深めていただくとともに、ワークショップを通じて主体的に訓練へ参加いただく機運を高める</p>	<p>・屋内退避の実施方法や避難時の服装など、具体的な内容をワークショップで確認いただいたことで、アンケートの結果をみると参加住民の7割が講座を通じて原子力防災に関する理解が深まった・やや深まったと回答され、一定の効果が見られた。</p> <p>・講座の参加者数が約50名であり、より多くの方に参加いただく必要がある</p>	<p>・原子力防災に関する理解が深まるよう、引き続き内容・時間配分等について検討を行う</p> <p>・講座の開催時期、方法等について米子市、境港市と連携し、訓練参加住民がより、講座へ参加しやすい形を検討する</p>	
<p>訓練展示を通じた訓練参加住民等への災害全般への知識・理解を深めていただく</p>	<p>・各機関の皆様のご協力のもと、災害時の通信の確保や救助活動に関するパネル展示を実施したほか、衛星携帯電話や防護衣など資機材の実物を展示することで、訓練参加住民だけでなく多くの一般来店客に各機関の活動について身近に感じていただく機会を設けることができた。</p>	<p>・引き続き来年度訓練時も、各機関の皆様のご協力を得て、訓練参加者の皆様へ災害時の活動や通信の確保について理解していただく機会を設ける。</p> <p>・今回は一連の訓練項目が終了した後の待機時間に展示を見学していただく流れとしたが、住民の方の関心が向きづらかったという意見があったため、次年度は訓練の流れの中に展示を組み入れて、より興味をもって見学してもらえる改善を行う必要がある。</p>	

## 原子力防災講座等の概要

### 【目的】

原子力防災訓練の参加住民に、原子力防災や放射線等についての知識・理解を深めていただき、より効果的な原子力防災訓練とする。

### 【日時・場所】

日	時間	場所	参加者数
10月21日(土)	10:00～11:30	米子市夜見公民館	17名
	13:30～15:00		10名
10月27日(金)	19:00～20:30	境港市保健相談センター	18名
10月31日(火)			15名

### 【内容】

#### (1) 原子力防災講座

○演題 放射線の人体への影響と原子力災害時の防護措置

○講師 鳥取大学 生命機能研究支援センター 助教 北 実(きた まこと) 氏

#### (2) ワークショップ

避難を行う際の注意事項 等



## 訓練展示実施状況

### 【実施内容】

訓練参加住民や一般来店客に対する各機関の災害対応活動に関する普及啓発

### 【日時・場所】

11月19日（日） 9:00～13:00

イオンモール日吉津店西館1階 チューリップコート

### 【参加機関（敬称略・順不同）】

- ・ NTT西日本鳥取支店 ・ 株式会社docomoCS中国鳥取支店 ・ KDDI株式会社
- ・ ソフトバンク株式会社 ・ 自衛隊鳥取地方協力本部

※ N T T 鳥取支店様、docomoCS中国様、自衛隊鳥取地方協力本部様には訓練終了後も来店客を対象とした展示を15:00まで実施していただきました。ご協力ありがとうございました。



## 西部7町村合同避難所開設運営訓練の概要

### 【目的】

中国電力株式会社島根原子力発電所に関する原子力防災体制の推進を図るため、鳥取・島根両県と関係6市が連携して実施する原子力防災訓練に合わせて、避難者受入れの予備地域となっている西部町村において、地震複合災害を想定した予備避難所開設運営訓練を県・西部町村の共催により実施する。

### 【日時・場所】

- (1) 日 時 平成29年11月19日(日) 13:30～16:30
- (2) 会 場 南部町ふるさと交流センター(西伯郡南部町福成1452-1)
- (3) 内 容 地震により住民が避難所に避難するという想定の下、避難所の開設運営訓練を実施するとともに、参加住民への普及啓発活動を実施する。



# 平成29年度原子力防災訓練 (島根原子力発電所対応) 訓練実施結果

## 米子市

### 初動対応訓練（11月17日実施分）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
災害対策本部等の 運営	災害警戒本部及び災害対策本部における情報収集、解析対策の立案等の一連の活動について確認できた。	現地確認やOFCなどへの派遣を考慮した、実戦的な人的資源の確保	
通信連絡・伝達	関係機関と緊密な連携により必要な情報の共有ができた。 特に、原子力防災ネットワークシステムを活用してテレビ会議による、国及び2県6市との情報共有は機器のトラブルはあったものの有効であった。 一方、情報受取り時、複数の通信機器から同様の内容が送付されることもあるため、その選別に時間を要した。	ネットワークシステム故障時の腹案を検討(代替機器の準備) 情報処理に係る要員の確保	

## 初動対応訓練の概要（11月17日実施分）

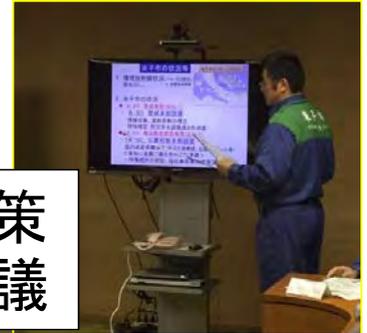
### 【本部運営等訓練】

- 島根原発事故に伴う  
本部運営要領等の習熟
- 迅速な災害対策本部要員の参集及び  
災害対策本部会議の開催
- 中国電力の情報連絡員の説明による事故概要等の掌握
- 原子力防災ネットワークシステムを利用したテレビ会議  
による国及び2県6市との迅速な情報共有



各通信機器からの文書を集約、関係機関へ送信

### 災害対策本部会議



## 住民等避難訓練（11月19日実施分）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
多様な避難手段による 住民避難	多様な避難手段(バス、JR、自衛隊高機動車)による避難及びパトカーの先導による円滑な避難	引き続き、訓練に参加していない地域にて実施	
避難広報・避難誘導	・広報車による多言語(中国語、韓国語)による広報 ・隊友会等による、適切な避難誘導 ・新規に導入した配信システムによる緊急速報メールを活用した避難指示	・避難行動要支援者に対する広報の拡充 ・配信システムの運用検証	
一時集結所の運営	・開設から安定ヨウ素剤の説明、服用訓練、避難案内までの一連の活動を確認 ・一部の一時集結所で説明が聞き取りにくかった ・通訳者、要約筆記者等を配置した外国人、聴覚障がい者の円滑避難 ・一部、バス侵入経路や待機場所等に適さない所があった。	・掲示板や拡声器の活用について、職員への周知徹底 ・バス等の適切な待機場所の確保及び待機場所等がない場合の運用方法検討	
避難行動要支援者避難	・車椅子による避難を実施 ・ホワイトボードを活用した情報発信	継続した避難行動要支援者避難訓練による支援能力の向上	
避難状況の把握	・通信機器による、避難状況の掌握と交通統制 ・避難退域時検査会場にて参加住民が逸れることがあった ・避難退域時検査会場で「手話通訳」のピブスを見て話しかけると手話ができない職員だった	・避難退避時検査会場の混雑情報を入力したことから、本市は独自にバスの交通統制を行ったが、他県、他市のバスなどもあることから、県による一元的な交通統制を要望する。	